

成蹊会誌

ツツジ *Rhododendron* Subgen. *Anthodendron* (*Azalea*) (シキナゲ科) —日本の庭園に最も多く植えられ、且つ愛好されている花木の一つで、多数の種類の知られている。まず觀賞用として栽培されている日本産自生種の主なものを記す事とする。ヤマツツジ *R. Kaempferi* Planchonは我國の丘陵山地に多く普通に生ずる灌木で、葉葉は卵形又は楕圓形で両端尖り幅廣く、細小な葉を除いて商業し、5-6月赤赤の花を開き新緑に映えて人目を惹く。萼片は短小、雄蕊は5本、葯は黄白色を帯び、莖、葉の毛は僅け平臥して疎密はない。萼色は白、花は二重咲のものや、紅紫色の花を開く型がある。モチツツジ *R. macrosepalum* Maxim. (*R. linearifolium* Sieb. et Zucc. var. *macrosepalum* Makino) は京海地区以西、近畿と中國、四國の東部丘陵に多く生じ、若枝や葉に立つた軟毛を密生し、殊に花枝、萼には疎毛を密生して結るもので著しい。萼片は線状披針形で長さ2-3 cm、花は淡紅紫色で芳香があり、雄蕊は5本で子房にも疎毛がある。本種から出た特殊な園藝品種にハナダルマ、コチュウロウ、セイガイツツジ等があり、八重咲のツツジ園芸(蘇萬葉)は最も花形が美しい。ヤマツツジと混生する花では自然種種であるモチツツジが見られ、又他種との雑種にもなった園藝品種も多い。キシツツジ *R. ripense* Makino は中國、四國、北九州の溪河に自生し、モチツツジに似て疎毛少く、葉は細く毛は臥し、萼片は披針形、雄蕊は10本あり、子房は伏卵形のみを有する。「若葉」和稱せられる園藝品種はこの種類に近い。ケラマツツジ *R. scabrum* G. Don は琉球列島の瀛海で九州南部では古くから觀賞用に栽培されている。葉は常緑で厚く光澤があり、花は淡赤色で大型、萼片は短小、雄蕊は10本、莖、葉の毛は僅け平臥して疎密はない。花は二重咲、花は淡紅、紅色を帯びるもの等があり、中で「瀛海丸」と呼ばれている品種は花が径8-10 cmに達し裂片は種々、縁は波状をなし美事である。ミヤマキリシマ *R. kiusianum* Makino は九州の山地 700-1000 m以上の高地に生じ、群落をなして開花時には頗る壯麗で、温泉街、霧島山、阿蘇山等が有名である。ヤマツツジより通常矮小く枝は密に出て横に張り、葉は小形、花は小さく径2-3 cm、筒筒短く長く、淡紅色又は紅色のものが多い。盆栽に適し、クルメツツジといわれているものの一部は本種からでている。

ワンセンツツジ *R. serpyllifolium* Miq. は我國 伊豆以西の山地に産する小灌木で、枝は細く葉は頗る細小で卵形長さ3-15 mm、花も小さく径1.5 cm内外、淡紅色又は白色、雄蕊は5本で超出する。可憐なもので鉢植として栽培される。本種は九州温泉島には産しない。
 サツキ *R. indicum* Sweet (*R. lateritium* Planchon) は本州中部以西の河津岩上に生じ、葉は楕圓披針形で多少光澤があり、夏葉は暗赤く、9-7月新芽が紅ひ他のツツジ類の花が殆ど終つてから咲き始める。花は枝頭に通常單生し、紅紫色、紅色のものも多く、萼は短小、雄蕊は5本で葯は黒紫色、毛は凡て伏している。300年以上も前から庭園に植えられ又盆栽として愛され、多数の園藝品種が知られている。既に「錦徳丸」(1692年)には169の品種が挙げられている。九州の五



第266図 レンダツツジ

島や南部の島々にはサツキと同時期に開花し、葉が幅廣く倒卵形をして、通常花色淡く、雄蕊が数多くなるマルバツツジ *R. ericarpum* Nakai と産し、庭園にも栽植されサツキとの雑種もできている。また一般にサツキといわれているものの中には半種アザミとの雑種も混つてゐる。
 レンダツツジ *R. japonicum* Suringar は1000 m以上の山地の原野を好み、八ヶ岳、浅間山麓や富士山麓には大群落があり、6月の開花時には壯麗である。葉は長倒卵形乃至披針形、鈍頭で下部長楔形をなし、粗毛を有し、完全に常葉し、花は枝頭に数輪散状に著き、大型で径5-7 cm、色は暗紫色が普通であるが赤味のものも、或は白色を呈するもの等変化がある。歐洲では本種に支那産 *R. molle* G. Don と交配して、多くの美しい園藝品種を育成した。根皮にスバラソール (Sparassol, $C_{10}H_{16}O_4$)、花には苦味のあるロダチン (Rhodajaponin, $C_{21}H_{32}O_8$)

を含み、漢方では花又は根を油に蒸してリュウマチス、痛風に内用するが、有毒であるから注意を要する。又花を便所に入れては蛆が死滅し、ミヅバツツジ *R. dilatatum* Miquel は本州中部の丘陵山地に生じ、葉は廣い菱形をなして枝頭に通常3枚輪生するもので著しい。春、若葉に先立ち又は同時に紅紫色の花を開き、雄蕊は5本、子房には疎毛を密生する。この類には我國に近似的なものが数種あり、東海地方以西にはコバノミヅバツツジ *R. reticulatum* D. Don が多く、雄蕊は10本、子房は白毛を密生している。花の紫色はアントシヤン類のマリン (Malvin, $C_{20}H_{19}O_7Cl$) なることが証明されている。阿蘇以北の山地にはトウモロコシツツジ *R. Wadanum* Makino があり、雄蕊は10本、葉柄、葉下面中肋、子房には白毛多し、花柱の中部以下に疎毛がある。以上の外、地方によりその附近に産する自生のツツジ類を庭園に栽植している場合が少なくない。精細山に産し、葉も小さく長さ8 mm 以下の小自花を著けるコメツツジ *R. Tschonoschii* Maxim. 等も時々盆栽される。又朝鮮原産のタウネツツジ *R. Schlippenbachii* Maxim. やチョウセンヤマツツジの八重咲種であるロダツツジ *R. yedoense* Maxim. も古來我國の庭園に栽植されている。

我國でのツツジの栽培史は極めて古く、初めはモチツツジやヤマツツジの標的な自生品を庭園に植え、漸次變り物と珍重し、主に西園日本から異つた種を入れて肉花や自然種種等による變り物が集められた。1681年出版の「花境綱目」には既にツツジの園藝品種147のものが掲げられ、1692年に出版したツツジの図解書「錦徳丸」(後に「長生花抄」と改題)には425品が記されている。其後江戸時代においてはツツジの栽培が流行し多くの園藝品種がつくり出された。今日最も普通に栽培されているキシマツツジ *R. obtusum* Planchon の如きも、少くも300年以上前から栽培されていた。この起源は明らかでないが、1645年の原標が九州霧島山から大坂へ運ばれ、それから10年後京都と東京へ移入されてから色々の園藝品種が生れたと傳えられている。併し九州霧島山には確實な自生なく、恐らくヤマツツジとミヤマキリシマとの雑種から生れたとの説がある。夏葉は倒卵形で常葉とほぼ同形で最も、花は径3-4 cmで鮮紅色、葯は暗紫色である。花著きが多い、4月他のツツジに先立って開花する。二重咲、白花その他200種以上の園藝品種があり、有名なクルメツ

ツジは1830-43年頃北九州から實生から生じたといわれており、ツツジ、ミヤマキリシマ、キシマツツジの實生や種間から改良選擇されたものと考えられる。又實生庭園に植えられているものにリュウキユウ性といわれている1群があり、シロリュウキユウ、メラサキリュウキユウ、オホメラサキその他多くの美しい園藝品種がある。何れも花梗や葉は多少枯實で、萼片は狭な披針形、雄蕊は10本である。シロリュウキユウ *R. mucronatum* G. Don は大型の白花を開くので著しく、古くから庭園に植えられ、中支の原産と考えられた事もあるが、キシツツジとモチツツジの影響を受けたものと考えられる。これに近く花冠に紅紫色の斑があるもの(斑咲種)や全體が紅紫色のもの(斑咲種、八重咲種)の等がある。花冠の更に大型のものに「葉の松風」があり、枝により白花と紅紫色の咲き分けとなる。「舞時」は花冠上側に濃紅細點を密生していて美しい。園藝品種であるメラサキリュウキユウ *R. hortense* Nakai はモチツツジに最も近いが、雄蕊は8-10本ある。オホメラサキ *R. Oomurasaki* Makino も庭園に普通で、径6-7 cmに及ぶ紅紫色の花を開き、夏葉も大きく多くなる。この形は20年以上も前から栽培され、リュウキ性のものもメラツツジとの雑種起源と思われる。ヤマツツジに近く雄蕊が6-10本あり、花は純な紅紫色、萼片の特大い形が最も栽植され、その代表的な品種は「三河丸」、「飛鳥川」等である。園藝上この外近年アザラシ (*Indian azalea*) と呼ばれて歐洲から輸入された1群があり、矮性で花を開き色は變化多く、針葉と似ていている。これは支那産 *R. Simsii* Planch. と我がサツキとの雑種が多く、歐洲で最も多くの品種が育成されたものである。一般にツツジ類は雑種と種間により園藝品種が育成され、繁殖は挿木によつて行われる。ツツジ類の材は一般に極めて堅く、木理緻密で粘り強く、均質で加工し易く、小径のものが多い。時にミヅバツツジの類がある細工、洋傘の柄などに用いられ、皮付のものには襪底に當るもので大いものは床柱に、細いものは数等重、茶室等の障子に用いることができる。また小枝付の枝を茶の湯の枝焚きとし、余燭に灰伏して作った焚火は欒く均質で漆器、金具等の研磨用に用いる。

際、御召機のエンジンの一つが一寸不調であるとの報告が入った。大事をとって予備機と入れ替えることになった。ところが当日オルリー空港ではトウイングトラクターや地上電源車で通称グラランドパワーといっているもの等を取り扱う会社がストライキで、わが特別機には最少限必要な人員と台数だけしか用意されておらず、入れ替えるだけでも一苦労の上、荷物だけで大変な数量である。機内サービス用品も入れ替える必要がある上、客室に持込む手荷物もあるといった案配で、これら全てを一時間位で完了し、新たに用意された、お召機で両陛下は無事定刻前にロンドンへお着きになられたのである。オルリー空港での平常通り飛び立つ雄姿を見ていて涙が出そうになった。まわりをみると、この作業の陣頭指揮者である斎藤事務以下、社側予備機添乗員の面々、現地バリ支店関係者、制服姿の予備機コックピット・キャビンのクルーたち、整備に当った整備担当者荷物の搭載に全精力を使い果たした運送担当者等、そこに立並ぶ全員が無事定刻に飛び出したことを喜びとし、晴れやかな顔、顔、顔であった。ほんらいなら、三十分も遅れようかというところだけに、両陛下はじめ随行者の方々、現地公館の方々もお喜びになられたことと想っている。そのような思い出を残しての今度の両陛下ご訪欧特別飛行であった。

(日本航空・政経十回卒)

桃調会発足のお知らせ

その昔、中村春二先生がお元気で、成蹊が池袋にありました頃、時々先生方の謠のお稽古が聞えてきたり致しました。私共小学校一、二年の頃で、岩田仁平先生と小遠足で狐塚や哲学堂へ行くと「紅葉狩」の一節を一句ずつ教わって「さなきだに人心」と皆で詠ったり致しました。目白の女学校では正課で「仕舞」がありました。それから大分時代が変りましたが、昨四十六年、寺田整治郎氏のお宅で綺麗な敷舞台をお建てになりましたのを機会に、九月二十五日成蹊卒業生と先生の謠会を発足させることができました。まず寺田御夫妻の素謡「鶴亀」から初めまして、真壁喜三郎先生の「船弁慶」佐藤興一先生の独吟「定家一字題」、坂本静江先生の「仕舞」狸々、佐藤順子先生のお笛、武田静子様の「熊坂」福田春江様の「紅葉狩」、進友子様の「融」森桃江様の「山姥」島村弥生夫人の「調玉の段」、等々、バラエティに富んだ番組で、三十五人程が一生懸命詠ったり舞ったり打ったりと盛会裡に終り谷岡喜久蔵氏の挨拶の後多数決で「桃調会」と命名致しました。ところがその後十一月九日に寺田整治郎氏が急逝されたのは一同吃驚してしまいました。第二回目は今年六月二十四日(土)午後から追善をかねて開く予定にしております。御同好の方々、どうぞ成蹊会本部(〇四二二一五一―二二四四)の谷岡さんまで名のり出してお仲間にお入り下さいますようお願い申し上げます。一回毎に益々盛んにしてゆきたいと思っております。(近藤卓月記)

WINGS 一夜

大野 春蔵

ドルショックへの対応策をめぐって内外の動きも一段と厳しさを加えてきた今日この頃、ロンドンで、パリで、あるいはチューリッヒでドルの両替に旅行者は難渋している事だろうと思うと今年(昭和四十六年)成蹊の海外旅行の企てがなかったことは先見の明か、何かの廻り合わせか兎にも角にも幸運なことだったと思う。

人生の終着駅も間近になった私にとって、この三年間続いた夏の海外旅行の想い出はまことに楽しい解放感だった。折にふれアルバムやスケッチブックを取り出しては異国の空や同行の方々の顔が臉に浮んで来て胸がせまる想いにまでなるのは自分でもおかしくなる。これもわれ老いたるかなであらうか。

期待したユングフラウも雨にたたられて緑に山の写真も撮れず失望の中に辿りついたのがウィーンの都だったので特にこの一夜が深く印象に残ってしまった。

ホテルの前の停留所から38番線の市内電車に乗ってその終点カーレンベルグの麓にあるグリンツィングでは自家製の今年の新酒を飲ませる居酒屋がそれぞれの軒先に松の枝が吊されている。

飲み助の心は国境を越えて

ホテルの夕食後T君の誘いでわれわれ一行A夫人、I女史とO氏

と私は連れだって電車に乗った。終点は街の場末の盛り場といった感じで古い建物が軒をたなわいて薄暗い舗道を私は皆の後に続いて行つた。車道には乗り捨てられた車が列をなして屯らしている。それぞれの門口にはネオンサインが暗い路を照らし何か旅情をしきりにかきたてる。狭い路地を左に入った突当りの中庭でアコーディオンを弾いていた男が隣りの家へわれわれを案内する。お粗末な部屋だが電気が煌々とついていて木のベンチやテーブルが所狭しと置かれ、そのテーブルを囲んでワイングラスを傾けては大声で笑い興じ何やら判らないが陽気な唄を合唱している。われわれはその真唯中に座らされた。まるで銭湯に入ったような雰囲気だ。どれもこれも善良そうな人達が互いに背中の汗を流しあっているかのようだ。中には子供を連れた家族連れもいる。

アコーディオンの男が音頭をとると一斉に唄い出す。文句は一向に判らないがいっしょに声を合せなければ格好がつかなくなる。そのアコーディオンの男の音量がまた素晴らしい。AI両女史も音楽の専門家なのだが思わず嘆声を洩らす。さすが音楽の都だ。われわれのテーブルにもジョッキ一程のグラスになみなみとワインが注がれている。先づ一口咽喉を潤ほす。甘酸っぱい温度の工合もよく冷えていて胃の腑を気持ちよく刺激してくれる。部屋のちょうど

向側の一隅に陽気なグループがいた。お互いに眼と眼が自然に会うような位置に団十郎のような大きな眼をした一見重役タイプの紳士がヤンチャ坊主のように一群の総大将となってタクトを振る。ジェスチャーよろしく調子をとって腕を左右に振ってはワインの杯をあげている。皆一斉に唄っているところを見るとこの辺の酒場の誰れでも知っている唄なのだろう。「酒は涙か溜息か」なんて都会のベィンズではない。ウィーンの空気のようには陽気な唄だ、そして唄う人達も皆陽気だ。団十郎氏の眼がこちらにウインクする。そしてグラスを高々とあげてSkullをする。いつしか心と心が通じ会う春助の心は国境を超えて溶け合う。酒場の空気はいよいよ高調、団十郎氏のタクトは忙しくなる。直ぐ前のアメリカ青年もいつしか足を踏み鳴らしテールを叩く。肩と肩でスクラムを組んでリズムに合せて左右に軋を揺がしている一団もある。同行のA夫人も少々上気して「素敵だわ」と思わず感嘆する。若き日の血汐が甦えったかのような一瞬彼女達にとって今宵このウィーンのひとときは一生の佳き想出ともなることであろう。一杯のワインは心の窓を開く。心と心の交流は国境を超え、人種を超越し、エトランゼの心をいやが上に慰めてくれる。



ボン・スワール!

私は一冊のスケッチブックと一本の鉛筆を持っていたので早速団十郎氏とアコーディオンの男をスケッチして向側のテーブルへ行って彼に渡す。彼氏団十郎は外人特有の大袈裟なジェスチャーで大いに喜びの表情をして乾杯をする。そして握手、しびれる程の固い握手だった。団十郎氏はポケットを探って一枚の名刺を出して私にくれた。生憎名刺がなかったたのでスケッチブックの一隅に名前を書いて彼氏に渡し再会を約してまた乾杯。

次から次と絶え間なく合唱が続く、この雰囲気は吞まれていつもあまり飲みつけないA夫人もI女史もいつしかワインの量を過したのかホンノリ上気してこの興奮の埒埒に溶け込んでいった。もう夜も相当更けたので終電に間に合うようにそこを出た。電車の中には居酒屋帰りの客が大分乗っていた。同じ酒場にいたのであろう娘連れのフランス人夫婦が親しげな眼差しをこちらに送る。思わずボン、スワールと軽く口から出ってしまった少々酔ったかな。やがてホテルの前まで来たので握手をして早々に別れを告げて降りる。ボン、スワール!

(実務三回卒)

成蹊会近況

昭和四十六年八月一日
昭和四十七年一月三十日

一、会議

○同窓会

- 一、やよい会総会(十月五日・京王プラザホテル)
- 二、実務学校懇親会(十月二十八日・成蹊クラブ)
- 三、中学校懇親会(十一月十八日・成蹊クラブ)
- 四、大学政治経済学部委員会(十一月二十二日・成蹊大学)
- 五、大学工学部総会(十一月二十三日・成蹊大学)
- 六、旧制高校委員会(十一月二十六日・成蹊クラブ)
- 七、小学校委員会(十二月十六日・成蹊クラブ)
- 八、高等学校委員会(四十七年一月二十一日・成蹊クラブ)
- 九、やよい会新年総会(一月二十二日・帝国ホテル)
- 十、文学部同窓会準備会(一月二十九日・成蹊クラブ)

○支部会

- 一、関西支部会(十一月十九日・大阪好文クラブ)
- 二、東海支部会(四十七年一月七日・名古屋タチソウ)
- 三、九州支部会(一月二十二日・福岡電信電話会館)

二、事業

○成蹊会誌第三十四号発行(九月一日)二、〇〇〇部(六十五頁)

○成蹊会役員名簿発行(九月十五日)

理事・監事・顧問・評議員・特別委員会委員・支部・各同窓会の役員氏名記載

○支部名簿発行(十月一日)

北海道・東北・千葉・東海・関西・九州の六支部在住の会員名簿
本年度ご招待の先生

本年度ご招待の先生

- 浅見義弘先生(七十三才) (成蹊大学名誉教授)
小島鉦作先生(七十才) (成蹊大学名誉教授)
中村清一郎先生(七十才) (成蹊大学名誉教授)
会員からのお祝金総額 七四八、〇〇〇円
応募された会員数 三〇八名

○勤務先別会員名簿発行(十一月一日)

昭和四十六年度会員名簿(学校別・勤務先別名簿)より勤務先名簿を別刷にして成蹊大学三年在學生に配付

○寄付

- 一、第二十二回四大学(学習院・成城・武蔵・成蹊)運動競技大会(十月七日)
金 一〇〇、〇〇〇円
- 二、第二十二回四大学運動競技大会優勝祝賀会(十月二十八日)
金 四〇、〇〇〇円
- 三、成蹊大学体育会総会(十二月八日)
最優秀団体・個人に記念楯八個